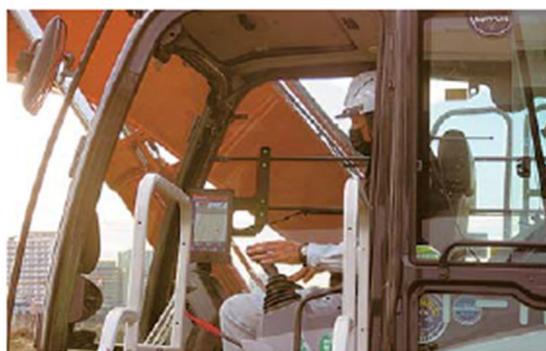


【オリコンサルら 設計データで施工モデル 整備局の現場で実証 作業時間を8割短縮】

# 設計データで施工モデル

## オリコンサルら 整備局の現場で実証 作業時間を8割短縮



ICT建機に作成した  
モデルを搭載



システムを解説する  
出本DX推進副本部長

オリエンタルコンサルタンツは、自社開発した「土工部ICT施工データ変換システム」を関東地方整備局荒川下流河川事務所管内の工事現場で実証実験した。施工を担う金杉建設・浅沼組の協力を得て3次元モデルを作成。同じシステムを活用することで、若手職員とベテラン職員が同様の時間で施工モデルを作成できることを確かめた。作業時間を80%程度短縮できることも確認した。

18日に金杉建設が施工する松島二丁目地区下流高水敷掘削工事現場内（東京都江戸川区）で実証実験の結果を公開した。

設計BIM/CIIMを加工して、ICT土工用の3次元モデルを容易に作成できるシステムの実現現場での検証を進めており、関東整備局管内では道の駅ここのす造成工事に続き2例目。道の駅ここのすではオリコンサルが施工モデルを作成したが、今回は施工会社自らに作成してもらい、効率化につながるかを検証。事業全域の設計BIM/CIIMから施工区間を切り出すとともに、擦り付け、切り土機能も試行した。

モデル作成は、3次元CADの経験のない金杉建設の宮本。ただ、同システムには、BIM/CIIMモデルを照査できる機能がないため照査機能を求める意見も挙がった。オリコンサルの出本剛史DX推進副本部長は、今後さらに現場実証を進めていく方針を示した上で、「調査から維持管理までデータをつなげていく、そのための第一歩」と思っている。Society 5.0に幾ばくかの貢献ができればと思っている」と述べた。

本紘氏、浅沼組の塚田輝氏、CAD経験の豊富な浅沼組の内田寛氏が担った。作成はオリコンサル開発担当者とはほぼ変わらない時間で完了し、CAD熟練度に左右されないことがわかった。宮本氏は「作業時間を少なくでき、働き方改革にもつながる」、内田氏は「操作は簡単でわかりやすかった。汎用性のあるソフトなのではないか」と効果を強調。塚田氏は「入社3年弱の経験のため最初は不安があったが、わかりやすかった」と振り返った。